



教育警察常任委員会の委員長を務めさせて頂きました。(2016年度)

それまでは、1学年3学級に満たない高校は一律統廃合されることになっていましたが、基準を変え、小規模な高校でも残ることができる道を開くことができました。

また、三重県中で横断歩道が薄くなって消えてしまっている問題についても委員長報告を行い、予算を3倍近くまで増やすことができました。

自民党会派代表を務めさせて頂いております。(2018年度～)

先輩議員にお支え頂きながら、三重県議会の自民党会派代表を務めています。開かれた会派運営を心掛けています。



略 歴

- 昭和52年生まれ
- 南伊勢町相賀浦在住
- 明治大学卒業
- 元三ツ矢のりお秘書
- 平成19年の三重県議会議員選挙で初当選(最年少)
- 環境生活農林水産常任委員会 委員長
- 防災県土整備企業常任委員会 委員長
- 教育警察常任委員会 委員長
- 監査委員
- 三重県議会 自民党会派 代表
- 自民党三重県連 青年部長
- 自民党三重県連 広報委員長
- 自民党三重県連 会計

村林さとし後援会

三重県度会郡南伊勢町
五ヶ所浦727-4
TEL.0599-67-0067
FAX.0599-67-0068



後援会入会討議資料



むらばやし

村林
さとし

私の決意

いつまでも住める地域に

私がこの地域から選ばれていることの意味とは、私が県議会議員として果たすべき使命とは、それは「いつまでも住める地域にする」ことだと信じて取り組んで参りました。

度会郡を代表する県議会議員であれば、過疎の問題から逃げることは許されません。「この地域が大好きで、本当は住み続けたいのに、住み続けられない悲劇。これこそが過疎の本質です」、「過疎の本質へと切り込ませて下さい」と訴えてきました。

この、人口流出に対策をするべきだ、という主張が鈴木英敬知事に届き、県に南部地域活性化局や、南部地域活性化基金ができました。これまで県は少子化対策（自然減対策）に力を入れてきましたが、これからは人口流出への対策（社会減対策）にも同じく力を入れていく、ということになりました。さらに国からの地方創生という流れもあります。

私は、単なる人口が増えたとか、減ったとかというお話だけではなく、守るべきは、みなさんの営みであると考えています。これまで続けてきた農山漁村の営みが、これからも連続と紡いでいけるようにしたいのです。

就業・結婚・子育てという当たり前のことが当たり前に見える地域。そして年を取ってからも安心して暮らし続けられる地域。こういう地域にするために努力し続けます。

これまでの取り組み

一般質問

2014年度

- 人口の社会減対策
- 仕事モデルを作るという視点
- 南部地域活性化について
- 水産業・漁村振興指針について
- 造林について 他



2015年度

- 定住のための仕事創出について
- 南部地域における仕事モデルの開発について
- 農業・漁業の後継者対策
- 被害状況に応じた獣害対策
- 地域内経済の循環について 他



2016年度

- 地方創生とりわけ社会減対策について
- 森林境界の明確化
- 森林環境教育について
- 畜産振興における課題について
- 拠点漁港の位置づけと漁港・漁場の予算確保
- 国道260号東宮一河内間の整備について 他

2017年度

- 条件不利地域にしごとを創る
- 定住の視点からの観光の産業化
- 集落機能の維持に向けた市町への支援
- 小規模県立高等学校の活性化取組を活かすために
- 津波避難経路の検証
- 台風時の降水量と潮位について
- 新型インフルエンザや新たな感染症への備え
- がん検診の質の確保 他

※その他、2014年度以前のものも含めてホームページにてご覧いただけます。(動画付き)

村林さとし

検索

<http://www.murabayashi.net>

